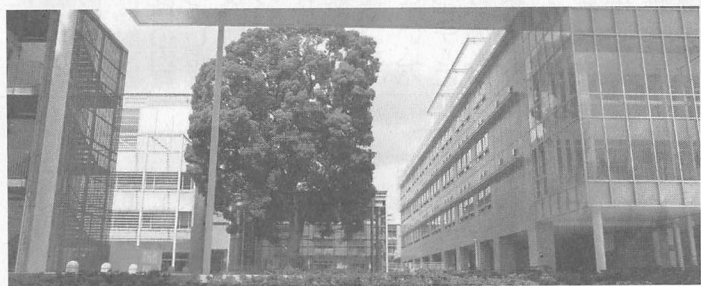


21 KOMCEE East竣工 全棟が完成しました!



永田敬・真船文隆

できました!! 駒場キャンパスのメインストリート
銀杏並木を歩いて、建ったばかりの21 KOMCEE

Eastのガラス張りのピカピカの玄関と大庇の下の開放感いっぱい広場、そしてその向こうに高く枝を張った楠越しにWest棟が一望(きざ)とこぼれ来る、ついつい立ち止まって思わずニマニマしてしまいます。その二

ノマリ理由とは?
今を遡ること九年前(大した昔じゃない?)、その年に就任した小宮山宏総長(当時)は「東京大学アクション・プラン」を公表し、本学の教育の目標のひとつとして、広い学問的視野に立ちまかせまな課題にチャレンジできる人材を育てる「理想の教養教育の追求」を掲げました。その中の具体策のひとつが「理想の教育棟」プロジェクトでした。ひとこと言えば、これまでの駒場キャンパスの教室建物にはない、斬新な教育や学習のための空間を創ろうというのがその趣旨。そこで、若い(当時)先生達がプロジェクトチームを作り、いろいろなアイデアを出し合い、また他の大学や企業にも調査に出掛けた。「理想の教育棟」の写真をつくりました。そこで出来上がったコンセプトが「滞在型の学問空間」でした。授業が終わったらさっさと帰ってしまうような建物ではなく、ずっとここで

に居て皆と議論したり語り合ったりできるような空間。学習するだけでなく、学問に触れることができるような空間がそのイメージです。そして、そのイメージを現実のものにするには、学内外のいろいろな方々の努力と援助、そしてアイデアの段階から二〇一一年のWest棟完成を経て今回のEast棟竣工まで九年の歳月を要しました。という訳で、やっと全棟が完成した建物を見ると思わずニマリなのです。



一階に基礎物理学実験室、三階に基礎生命科学実験室、四階に基礎化学実験室が配置されています。実験室に入ればすぐに気付くのですが、柱が……ない。特に基礎物理学実験室は細かい区画に分かれていますので、「広い」と感じると思います。教員と学生がお互いに見渡せることで一体感が生まれ学生と教員、学生どうしの議論を通じて、教育の質がさらに高くなることを期待できます。

次に講義室。ほかの建物の教室とは少し違います。黒板(ホワイトボードですが)に向かって左右方向に長く、前後方向に短い長方形です。ほかの建物の教室は、大抵その逆で、ここに座っても黒板がよく見えるように奥行きのある形をしています。それでは学生の皆さんが後ろの方に座ると、教員から離れてしまう。そのようなことがないよう、教員から見ても全体が見渡せるように、横長の形になりました。その代り、左右の端に座っても反対側の黒板の字が見えやすいように、黒板は端が張り出した配置になっています。

……でも、教員と学生の距離が縮まり、大人数の教室でも議論が展開されることを期待しています。

学びの空間は、教室の中だけではありません。一階には、オープンスペースがあり、自習室として使えます。図書館ほど静かでないてもよい、ほかの人に迷惑をかけない範囲で皆と議論できる滞在型空間です。また、各階の廊下には、壁にホワイトボードが設置されています。授業や実験が終わった後、学生どうして振り返ったり議論したりできる空間になっています。その他にも、Komaba Writing StudioやT-MRI(磁気共鳴画像装置)が設置された部屋など、びっくりするような機能も備えています。

今回、East棟の竣工ということで、East棟を中心に紹介しました。もともと、九年前に「理想の教育棟」プロジェクトが立ち上がった時には、East棟もWest棟も一体のものとしてコンセプトが作られました。West棟のアクティブラーニング教室、オープンスペースアリーナやホールなど、今回のEast棟と併せて、当初プロジェクトチームが考えたほとんどすべてのアイデアは、21KOMCEEの設計・建築の工夫によって実現されています。後は、学生の皆さん達がどんな風に21KOMCEEを活用してくれるかですが、それを見てきくとまたニマリするだろうなと思っています。

(相関基礎/化学)